

日本における令和6年度の人権啓発重点目標

『誰か』のこと じゃない。



エイジズムって何だろう？

エイジズムとは、年齢に基づいた偏見や差別のことを言います。例えば、「いい年してこんな格好をするなんて」「～するには年を取りすぎている」と決めつけたり、人が何かを物忘れしたらすぐに「年を取ったからでしょう」等と言ったりすることは、無意識な年齢差別の表現にあたるのです。この考えは最近誕生したわけではなく、すでに1969年にはアメリカにおいて提唱されていました。

皆さんはテレビやネットの世界で、「老害」という言葉を目にしたことがあると思います。この言葉が誕生した背景には、例えば、自動車の逆走のニュースでは、圧倒的に高齢者のケースを目にします。そういう時に、「だから年寄りや、…」と考へ、このような言葉が生まれたのでしょうか。しかし、考へてみてください。この老害という言葉からは、年を取って生きていること自体が害であるかのような印象を受けませんか？すべての高齢者が、逆走してしまうのでしょうか？すべての高齢者が社会にとって害なのでしょうか？この言葉からは、今の便利な日本を作りあげてくれた方々への感謝がまったく感じられませんか、人権的に問題はないのでしょうか？



実はエイジズムに苦しむのは高齢者だけではありません。例えば、「最近の若い者は、…」という言葉。若者全体の行動や考へ方を否定するような表現を聞くこともあつたりします。すべての若者がそうなのでしょうか？いいえ、違いますよね。

人はいずれ年を取って誰しもが高齢者になります。自分が何十年後かにその立場になったときに、若者たちから、「その服は年寄りには合わないよな～」など、自分のしたいことを否定されるような発言をされたらどうでしょうか？

このエイジズムによる問題は、無意識の偏見と言われます。偏見とは、その集団に対する否定的な見方、考へ方を言います。「高齢だから仕方ない」や「高齢者は世の中の舞台から引退すべきだ」世の中の高齢者差別問題の多くはこのような偏見が原因ともいわれています。

多様性の尊重が言われている今、皆さんはぜひ偏見を持たず、相手の気持ちを考へた行動や発言ができる人に、そして、間違っていることには迎合せず、それはおかしいと言える人になってほしいと思います。